

- 1 ふるさとみな水葬にして浮いて来い
- 2 失語抱えて千のかなかな鳴かせしむ
- 3 詩を書けばたちまち薔薇の刑となる
- 4 宇宙へと次々どぜう旅立ちぬ
- 5 監獄ロック火星に溢れエルヴィス忌
- 6 トマト割る地球も二つあるように
- 7 噴水や陽を掴むたび墜死せる
- 8 ソーダ水楽隊過ぎゆく窓の眠たし
- 9 草の穂が獣の証 少女来る
- 10 天照の飲食（おんじき）なりし百日紅
- 11 雷もでんでん太鼓も壊れけり
- 12 耀ける麦のいくつか抜いてきた
- 13 鷹の眼で問われる鷹の眼で返す
- 14 ニンゲンが錆びてゆくなり青時雨
- 15 麒麟駆るとき地上は花の時雨かな
- 16 ダウナー入る凡ては風越しの未来
- 17 余白みんな神が占め動けない
- 18 工事現場のノイズに合わせて痩せている
- 19 ゆあーんと骨、ゆっくり右に曲がってゆく
- 20 ジガバチ襲来完膚無きまで肉塊を恥じる
- 21 家畜の涙を発火剤にして都庁まで歩く
- 22 肋骨を抜いて話し相手を量産
- 23 暴かれた内臓が道德する千の交叉点で
- 24 まばたき、銀河が少し入った
- 25 余の鸚鵡まで道化かそして刎頸か
- 26 冬市の死んだ陶器を撫でている
- 27 蓮の骨どこかに人の早贄が
- 28 心臓の位置まで光る冬鷗
- 29 話すために降って雲はもういない
- 30 飢餓盛んなり冬のボレロ鳴るとき
- 31 聖書会窓辺に雪の報せかな
- 32 不服従の六花がてのひらに
- 33 牡蠣喰つて屍体と一夜過ぎしをり
- 34 にんげんのあくむがそだつしはすかな
- 35 おとうとよ北風（きた）を家族の歌とせよ
- 36 中陰の街にぼんやり夜鳴き蕎麦
- 37 履歴書に集まる冬の皺伸ばす
- 38 風呂吹きやひとりを箸で分けている
- 39 花札の次の一手が冬霞
- 40 残酷な神が棲みつく冬薔薇
- 41 世をミュートするため携帯を投げる
- 42 水を秘めている蛇口いつせいにひねる
- 43 特効薬は懺悔しかない若しくは散華せよ
- 44 永遠に孵化しないための本棚すべて詩集
- 45 あをによし縄張りにまず戦車置く
- 46 絡み過ぎた保育園児滑り台からの贈り物届く
- 47 天鷲絨も白い息吐く
- 48 もう若くはない電柱ごとずむずむ沈む
- 49 数えきれない鷗が紙吹雪の港
- 50 感電して悟るうつしよの賞味期限を

- 75 聴衆も夏めく愛のオペラかな
- 74 ニンゲンは淋しい楽器 晩夏光
- 73 ルービックキューブの季語で遊びなさい
- 72 動力は揚げ雲雀 シャツフルされる空
- 71 芽吹くまでの廃炉列島序曲かな
- 70 春夏秋冬屍体は生きてたまま埋まる
- 69 戒名もみな新しく虎が雨
- 68 遺品尽きず沖も溢るる施餓鬼舟
- 67 肉体が溶けた順から夜光虫
- 66 大津波、山頂の墓横倒し
- 65 幾萬の海月が浮かび蘇える
- 64 フクシマやラーゲリは此処、敷島
- 63 放射能物質の一つとなり歩む
- 62 晩春の皮膚喰い破る緑かな
- 61 桜しべ朱き未練を散らばしむ
- 60 人体は歩く花野となりぬべし
- 59 紅梅を抜けてごろりと焼死体
- 58 首ひとつ手毬の女にくれてやる
- 57 赦されて詩を書く星の朧かな
- 56 万緑の尽きる処で待っている
- 55 あしたからげんげ島を住所とす
- 54 紅梅の弱火で空も煙立つ
- 53 太陽は最後の食事 鳥帰る
- 52 ふらここの地球のどこかですれ違い
- 51 満ちてゆく月の下では雛流し
- 76 シュレッダーにかけられシスターが殖えてゆく
- 77 母の闊歩、瓦解の街が支えて久しい
- 78 アルコールが軍曹、姉の夏蚕を次々撃つ
- 79 城を目指してぎいこぎいこと漕ぐ骨あり
- 80 身の孔からは鬼火、狐火、芥火、
- 81 それぞれのカルテを持って泣いている
- 82 夢なのにいつもエンドロール流れる
- 83 ビリヤードポケットに春突き落とす
- 84 最上階の夜釣りは会員制であり
- 85 心象のリストカットや月の雨
- 86 夕風の世界を止めている少女
- 87 冷房のをんをんと鳴きにけり
- 88 蜜柑噛む脱走兵の弾けるや
- 89 雷かワーグナーか分からない
- 90 黄泉つ火の並ぶ秋夜をそぞろ往く
- 91 地殻ずらして怒りの断層頭わに鷹が舞い鹿が逃げ
- 92 チゴイネルワイゼンいまは時雨るな
- 93 偽善者の靱が背中に付いている
- 94 棄て案山子「入るべからず」わが影に
- 95 きみも無職わたしも無職 寒桜
- 96 ぬばたまのぬに集まってくる氷魚
- 97 雪を火に火を雪に打つ鍛冶場かな
- 98 人は救えぬ昼夜砧を打ちにけり
- 99 降る雪の臥した形のまま燃える
- 100 ふりだしに戻る馴染の枯れ茨